

浄土

monthly JODO

2020
December

12

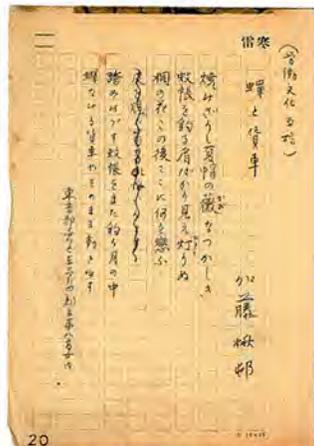
貧乏董

加藤楸邨句稿

三宅政吉

グラフィック・デザイナー

連載 48



サイズはA4判。右上に結社名「寒雷」の文字

俳人・加藤楸邨の自筆原稿である。知人からの預かりもので、昨年の秋に、俳句の友達が多いオマエなら売る算段もあるだろうと言われ受け取った。

「蟬と貨車」と題された句稿には六句の俳句が書かれており、そのうちひとつは波線で消してある。右上に「労働文化原稿」と書き込みがあると、雑誌『労働文化』（労働文化社）に寄稿したものであろう。この雑誌についてはよくわからない。句は次の通りである。

焼けざりし夏帽の微なつかしき（微は草冠となつていてはよくわからない。句は次の通りである）

蚊帳を釣る肩ばかり見え灯りぬ
桐の花のこの後ここに何を戀ふ

皮を脱ぐ筍青し悔いとす

踏みはずす蚊帳をまた釣り月の中
蟬鳴ける貨車やそのまま動き出す

これがいつ頃書かれたものかわからないが、ヒントは最後に書かれている住所にある。

「東京都品川区東品川四都立第八高女内」は、楸邨の年譜「現代俳句の世界8加藤楸邨集」（朝日文庫）以下「加藤楸邨集」によると、楸邨がこの住所に転居したのは一九四五（昭和二〇）年十二月のことである。二年三か月後の四八年三月には東京都大田区北千束の新居に移転している。するとこの二年三か月の間に書かれたものということになる。

この時期楸邨には二冊の句集がある。四八年の「火の記憶」と「野哭」である。「火の記憶」は四三年から四五年までの句を取めているから、戦中に詠まれた句集である。「野哭」は四五年から四七年までの句稿で、終戦直後から二年間に詠まれた句を取めていることになる。三章からなる「野哭」には八三六句が収録されているが、私の手元にある「加藤楸邨集」では、その中から五二九句の収録である。これを探してみると一章の「流離抄」に四句みつかった。まとめるにあたっての推敲によるものだろうが少し句の姿が変わったものがある（傍点部分）。

焼けざりし夏帽の微をあはれみき
蚊帳を吊る肩ばかり見え灯ともりぬ
踏み落す蚊帳をまた吊り笑ふなり
蟬鳴ける貨車やそのまま動き出す

という具合である。「桐の花」の句は見当たらない。編集の際に外されたのだろうか。また消されている「皮を脱ぐ」の句は「皮を脱ぐ筍青し腹へりぬ」として二章の「北海紀行」に収められている。

加藤楸邨は戦前・戦中・戦後を通じて、中村草田男、石田波郷らとともに人間探求派と呼ばれた俳人であり、「寒雷」では森澄雄や金子兜太という対照的な二人を初めとして多様な俳人が育っている。その中には軍部の要人（たとえば陸軍中佐で大本営陸軍部報道部長として「大本営発表」に関わっていた秋山牧車とその兄本田功中佐など）がいたこともあり、中村草田男は「芸と文学——楸邨氏への手紙」という表題で「俳句研究」（四六年七・八号）で楸邨および「寒雷」が軍部から何かと便宜を受けたのではないかと、その戦争責任を指摘した。これに対して楸邨の反論もあるが、ここで触れる必要はないだろう。

インド・釈尊あれこれ紀行



サラスヴァティ、琵琶を弾く弁財天。日本では芸事の神様とされる



マハーカール、怖い顔をしている大黒天。日本では七福神のひとつ

日本に渡来した ヒンドウー教の 神様

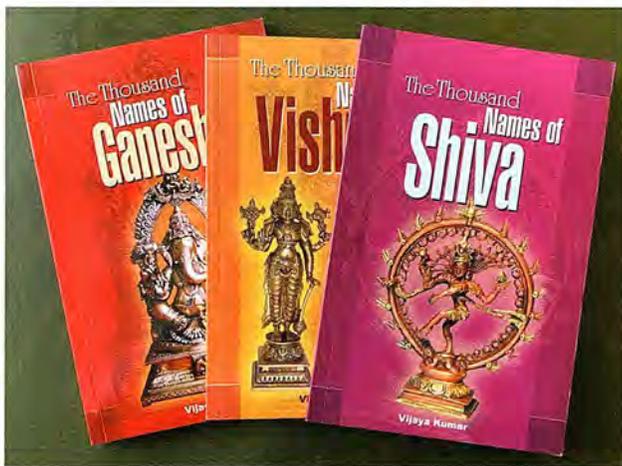
インドの人々の70パーセントが信ずるヒンドウー教だが、いつごろ生まれたのかわからず、開祖、経典、宗派がなく、この点では神道に少し似ている。仏教、ジャイナ教、イスラム教には開祖もいるし経典もあるが、イスラム教には僧侶はおらず、経典解釈をするイマーム（指導者）がいる。前回、ガヤのヒンドウー教寺院の中に他教の寺院もあると述べたが、まさにヒンドウー教ならではの。

ヒンドウー教の神々は無数に存在する。よく知られるのはシバ神、ビシュヌ神、そしてガネーシャ神だが、これらの神にはそれぞれに1,000種類を超える名前があり、そして、それらの名前を事細かに記す辞書まである。ただし、「すべての神々は実は一つである」と説かれているのが面白い。

このヒンドウー教の神々で、日本に伝えられたのは、密教（真言宗、天台宗）で仏様の守護神とされる神々を中心である。

インド渡航歴40回超!

佐藤良純のインド・釈尊あれこれ紀行 No.7



インドでは同じ神ながら、なんとその呼び名が1000を超える。
左の写真はインドで買い求めた神の呼び名を記した本で、左からシバ神、ビシュヌ神、ガネーシャ神。前号でも紹介した破壊の神・シバと、物事を維持する神・ビシュヌはどちらも最高神。
象の顔をしているガネーシャは富の神様で、聖天と呼ばれ、インドで最も好かれている神だ

1. Vishwam: *The All*

Lord Vishnu is the Universe, the supreme Brahman.

ॐ विश्वमे नमः

2. Vishnu: *The All-pervading*

Lord Vishnu pervades the whole universe, externally and internally.

ॐ विष्णवे नमः

which is Absolute Bliss.

1007. Shrivardhana: *The Nourisher Of The Vedas*

Lord Shiva, the Author of the Vedas, bestows spiritual wealth on His devotees.

ॐ श्रीवर्धनाय नमः

1008. Jagat: *The Entire Cosmos*

He is the Entire cosmos enveloping and pervading all.

ॐ जगते नमः

ビシュヌ神の本には、びったり1000の名前が記してある。写真は1ページ目

この本にはシバ神の呼び名が、なんと1008種類も記されている

梵天（ブラフマー神、創造の神）は多くの顔を持つ神として描かれる。日蓮宗の池上本門寺のお会式を飾る多くの切れ目のある梵天様をかかげる祭りはこの神を表している。

帝釈天（インドラ神、雷神）は、東京柴又の帝釈天、映画『男はつらいよ』の舞台となる経題寺の仏で、寅さんとともに名前が知られたっている。

水天（ヴァルナ神）は日本では安産の神（水天宮）として信仰されている。胎児が母の体内で羊水に囲まれていることに由来する。

弁天（サラスヴァティ、弁財天、琵琶を持つ）は、パキスタンの砂漠の地下に流れる伏流水で、インド洋に流れ込んでいるサラスヴァティ川の化身とされる。日本の弁天様は神奈川県江の島が有名である。

ガネーシャ神は智慧の神で、インドで学問や芸能で身を立てることを志すと、日本と同様に6歳頃にこの神に成功を祈る。また、子供が学ぶ教科書や本は、必ず「ナム ガネー

インドラ、帝釈天のこと。日本でもよく知られた神のひとりて雷神である



ラクシュミー、吉祥天で美、富、豊穰、幸運を司る神て人気のある神のひとり



ガネーシャ、象の姿をした二神の聖天が抱き合っているのが日本では一般的



「シャヤーアーム」の言葉で始まっている。「智恵の神に導かれますように」といったところだ。その姿は象だが、日本では二神が抱き合う形で表される。この聖天（歓喜天）は東京浅草の待乳山聖天がよく知られているが、水商売の人々に信仰されている。

ヤマ天は、閻魔王（もとは天に住む双子で、人類で最初に死んだ人。そのため地下に住むとされる）として人間の死後、生前の行いで極楽浄土に生まれるか、地獄に落ちるかを決める神として恐れられている。

鬼子母神（ハリテー）は子供の守り神であるが、その夫の般闍迦（パーンチカ）はあまり知られていない。日本では「恐れ入谷の鬼子母神」と故事諺にもなっている。

奏楽神であるガンダルヴァ神は烏トンビに似た姿で、神奈川県箱根の大雄山最乗寺の道了尊（天狗）が有名である。

毘沙門天（クベラ神）は船乗り信仰される地方もある。東京神楽坂の毘沙門天が有

チトラグプタ、閻魔専属の書記係。手に持つ紙に罪を記録している



クペーラ、毘沙門天で富と財宝の神。日本では四天王の一人となっている



ガルダ、神の鳥。仏を背負って三世（現在、過去、未来）、宇宙、世界を飛ぶ



名である。

チャンデイ神は天然痘を人々の代わりに発症し人々の苦しみを無くす神として、体中、天然痘の発生を示す痘痕としてアバタだけの姿で表されている。遠藤周作のインドのヴェナレスを舞台にした小説、『深い河』の題材にもなっている。

不動明王（アチャラナート）は動かない者の意味で、二人の従者を従えている。

吉祥天（ラクシユミー）も日本では有名な。ある。

こうしてみると、日本各地にいくに多くのヒンドゥー教の神々が祀られていることか。

佐藤良純

大正大学名誉教授

さとうりょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学、同大学院、インドテリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学部長を経て、平成14年退職、大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有餘回。著書に「ブッダガヤ大菩提寺」、「釈尊の生涯」など多数。

浄土

2020/12月号 目次

連載 インド紀行⑦ ヒンドゥー教の神様.....	佐藤良純	1
連載小説 渡辺海旭(最終回)	前田和男	6
連載 寺々刻々⑥ 衰退するイタコ	鶴飼秀徳	14
みんなの境内(一行院 森巖寺).....		19
ぶつぶつ放談 お寺に必要なIT(第3回) ...	井上広法 小路竜嗣	20
追悼 写真家 鬼海弘雄さん	佐山哲郎	27
微風吹動 日々を数える所作	工藤量導	28
連載 江戸の川を歩く 総集編(後編)	森 清鑑	32
連載 マンガ さっちゃんはネツ(最終回)	かまちよしろう	39
編集後記		40
表2 貧乏骨董	三宅政吉	



表紙題字=中村康隆元浄土門主
表紙写真=鬼海弘雄
アートディレクション=近藤十四郎
協力=迦陵頻伽舎

小説 快僧渡辺海旭

壺中に月を求めて

前田和男

最終回

渡辺海旭の偉業と遺業



僧侶を逸脱・越境した多義的存在

いよいよ最終回である。前回にお約束したとおり、渡辺海旭師の「偉業にして遺業」を記して手向けとし、あわせて読者諸賢の百回をこえるご愛読に報いたい。

そもそも渡辺海旭とはいったいいかなる人物であったのか？

総括的にいえば、傑出した宗教家にして教育家、社会事業家、さらには詩文家にしてコピーライターと、秀でた僧侶でありながら僧侶をはるか逸脱・越境した多義的な存在であった。

宗教家としては、第一期浄土宗海外留学生に選ばれてドイツで十一年間にわたりサンズクリット語、チベット語、パリー語を学んで比較宗教学を修め、帰国後は明治の近代化のなかで伝統仏教の再生・再興に大いなる貢献を果たした。

教育家としては、母校である芝中学（現・

芝中高）の校長を二十二年間つとめる傍ら、東海中学、宗教大（現・大正大）、東洋大、国士館大の設立・運営にかかわり、近代化が急がれた日本のために、有意な人材を数多く育てあげた。

また、近代化の矛盾のひとつである困窮者の救済と自立のための活動に宗派を超えて取り組み、「社会事業」の源流をつくりそれを日本に定着させた。

さらに文筆家として、数多くの漢詩や俳句・短歌をものするいっぽうで、先の「社会事業」のほか「カルピス」の名付け親ともなるなど文才にもたけていた。

とにかく一つの器にはおさまりきれない桁外れた人物であった。それは海旭の多岐多様な人脈にあらわれている。

新宿中村屋の創業者にして文化サロンの主宰者、相馬黒光。行動派右翼の巨頭で大アジア主義者の頭山満。インド独立運動の闘士のラス・ビハリ・ボース。カルピスを創業した

僧侶出身の三島雲海。海旭を師と仰ぎながらその偉大さに宗教家を諦めて文学の道へ転じた武田泰淳。芝中の教え子で日米開戦阻止を画策した外交官の寺崎太郎、戦後映画界を領導した映画監督の今井正などなど枚挙にいとまがない。

果たされた「屍体贈呈」の盟約

と、ここで泉下からこんな声が聞こえてきそうである。

「ま、待ってくれ。そんなご大層な評価はやめてくれ。そ、そもそも僕にはまだやり残した仕事が多ほどあったのだから」

なるほどその通りである。海旭は小康を得て現役復帰するつもりであったことは、前回紹介したように、宗教、社会事業、教育関係の三十を超える要職（いずれも名誉職や宛て職ではない）を兼務していたことから明らかである。本人としては、「これまでやってきたこと」よりも、想定外の死によって、「や

り残したこと」が気がかりだったはずである。そうであれば、「これまでやってきたこと」については後生の研究者の論究が多々あるので詳細はそこに譲り、本稿では「やり残したこと」を記して、筆者の母校芝中の第三代校長である泉下の海旭師の声に応えることにしよう。

まず海旭師にとつて、もつとも気がかりだったのは、三十年も前の明治三十六年、留学仲間であった医学生、足立文太郎が先にストラスブルクを去るにあたって、海旭が足立に餞別とした「屍体贈呈の覚書」ではなかつたらうか。

そこにはこう記されていた。

「予が死後の屍体は之を足立文太郎君に贈る。予が親戚及朋友等は一切之に対して抗議するを得ず」

「屍体解剖の主任者若くは局部材料の使用者は足立君が認めて適当となす」

師よ、ご安堵あれ。

海旭の遷化の翌一月二十七日午前九時、遺体は教鞭をとる京都大学からかけつけた旧友・足立の立会いのもと、東京帝国大学医学部において、解剖に付された。

足立によると、解剖所見は以下のとおりであった。

死後の体重五十四・六キログラム。脳みそは常人よりも重く、大脳の皺もすこぶる微細にて、海旭の頭脳が緻密にして明晰なることが認められた。また、腹皮は厚くて約一寸の脂肪層がみられたが、これは積年の肉食好みのせいであろうか。内臓器官には特段の損傷・異状はなかった。脾臓が常人の倍で中から特殊な汁が滲出、左肺が背部に密着し、その場所約八十グラムの血汁状の水が溜まっていた。これによって、肺炎は全快しており、死因は「敗血症」と断定された。

海旭と足立の間には、もうひとつ約束があった。

「子が死後屍体の贈致と共に若干の金円を之

に添付せんとす。少くとも石鹼一箇手巾一枚入浴費及醇良の酒三四合の代金を添付せんことを期す。執刀事に従せし後入浴一番少く陶然たるの快あらんことを欲すれば也」

これもまた足立が「幹事」となって、解剖に立ち会った人々を入浴後酒宴に誘って果たされた。

なお、師の脳みそは、ホルマリン漬けとなつて、いまま東大医学部標本室に、夏目漱石、桂太郎、内村鑑三ら「傑出人の脳」の一つとして保存されている。

渡辺和尚は死んでも生きている

海旭には、教え子たちのこともさぞや心配であつたろう。

海旭遷化のあと、東京帝大、慶応義塾、早稲田大、宗教大（現・大正大）、東京商大（現・一橋大）などから、西光寺へ授業料支払いの督促が相次いだ。それではじめて判明したのだが、海旭は極秘で、困窮寄宿生ら十数子の

学費を月々払っていたのである。

また、二十二年間校長の職にあった芝中学でも、親の倒産などで困窮した在校生たちの授業料を海旭が立て替えていたことが明らかになった。

海旭からすれば、「西光寺寄宿舎の舎監として、芝中学の校長として当然のこと」だったのだろう。畏友の頭山満は海旭の百箇日法要に列席して帰るおり、「世の中には生きていても死んでいるものがあるが、渡辺和尚は死んでも生きている」と言ったそうだが、まさにそのとおりで「俠客坊主」の面目躍如たるものがあつた。

これを知った弟子や関係者たちは、師の「俠氣」に感動。師の遺志をついで、その後も困窮学生を支援し続けたので、師にはどうぞご安心をいただきたい。

ちなみに生前の海旭の陰徳のおかげで学業をつづけ社会に貢献をなした教え子は数知れない。たとえば、貿易商の父親の死で学業断

念を覚悟した磯村英一もその一人であつた。海旭の死後三年後の昭和十一年に、東京市長の代理として「東京五輪返上」を同盟国のドイツに赴き総統ヒトラーに伝え、戦後は首都東京の責任者としてマッカーサーをいただくGHQからの無理難題とわたりあい、後に都市社会学の第一人者として東洋大学総長をつとめた逸材である。

海旭の号にちなんだ中村屋謹製羊羹

朴訥にして江戸っ子の「照れ性」が重なつた海旭の作風ゆえに、生前は口には出せなかつたと思われるが、内心には女性への想いもあつたはずである。泉下からは「や、やめてくれ」という声が聞こえてきそうだが、師も「その後」が気がかりだろうから、ご案内しよう。それは新宿中村屋の女主人、相馬黒光とのかかわりである。

黒光の長女・俊子は、支援者の頭山満の仲介でインド独立運動の闘士であるボースと結

婚、ボースとの間に二子をなしたが、大正十四年三月、二十六歳の若さで他界。海旭がかねてから交流のある頭山の仲介で、その葬式の導師を依頼されたのが黒光とのなれそめであった。

当時黒光は長女・俊子を失ったことに加え、一族の輿望を担って一高に進学した末男の虎雄が共産主義にかぶれて逮捕されるといふ家族の危機の只中にあつた。そこで海旭に出会った黒光は、俊子の葬儀の翌日から、海旭が増上寺で毎週主宰していた日曜講演に通ううちに海旭に心酔。なんと海旭の雅号にちなんだ「壺月」なる羊羹を中村屋から発売させたのである。

海旭の死後、その「壺月羊羹」はどうなったのか。黒光は戦後も中村屋を切り盛りしたが、彼女の死からしばらくして「壺月羊羹」も店頭から消えた。黒光が海旭の思い出として「冥土の土産」に持っていったのではないだろうか。

海旭の最後の弟子は仏教と茶道の二刀流

最後は、おそらく海旭にとって最大の関心事にして危惧と思われる、晩年に傾倒した大アジア主義がどうなったのか、である。残念ながら海旭を大いに絶望させるものとなったが、その無残な「末路」をみるのがなかつたという意味では、不謹慎を承知でいえば、海旭はいい時に亡くなったのではないかと。というのも、「大東亜共栄圏」に「五族協和」の「王道楽土」をつくるという理想は、軍が牛耳る政府によって、「五族」のうちの「漢族」「満州族」「蒙古族」「朝鮮族」の「四民族」に対する「日本民族」による支配と抑圧の口実とされただけだからである。

今から振り返ると、海旭が遷化した昭和八年は時代の大きな転軸点であった。前年には列強の批判のなか日本の後ろ盾で満州国が建国され、この年にはついに国際連盟から脱退、

後戻りのきかない悲劇の戦争へとつき進みはじめていた。

しかし、そんななかでもささやかながら「救い」があつたことを海旭師に報告したい。

それは海旭の支援で西光寺に寄宿し、芝中から宗教大を卒業した青柳貫孝の活動である。本連載の一〇九回で紹介したが、青柳はインド独立運動の闘士でボースと共に日本に亡命しながら官憲におわれ自死したアタールの遺骨を、海旭の意向をうけて故郷のインドへ届けた。青柳は僧侶の修行のかたわら「武家茶道」の遠州流茶道の師範免許を取得していたが、青柳はそれを継承せず、独自に「壺月遠州流」を立ち上げた。海旭の号である「壺月」を新流派名に付けたのは、恩師海旭より、「旧来の流派のしがらみに縛られることなく自由な茶風を求めたらよい」と示唆を受けたからだという。青柳はインドとその周辺国で仏教と茶道の普及に挺身、タゴールの最後の来日にあわせて帰国するが、日本に留まったのはわずか三

年にすぎない。海旭が流行性感冒で急逝する一年前の昭和七年、恐らく海旭の強い推挙があつたと思われるが、浄土宗管長の命により、当時日本統治下にあつた南洋諸島開教の命をうけてサイパンにわたり、浄土宗多宝山南円寺を開山。名目は、南洋諸島をふくむ「大東亜共栄圏」に「五族協和」の「王道楽土」を実現するため、宗教各派はこぞってそれに従つた。しかし、青柳の驚嘆すべきところは、実態は日本人による現地人の一方的差別支配でしかなかった「五族協和」を字義通り徹底実践することで「時の権力」に抗つたのである。開教活動は在留日本人相手に限定、ほとんどの島民はスペイン統治時代にカトリック信者になつていたので、あえて仏教への改宗はもとめず、もっぱら茶道を教えた。また、サトウキビ労働に従事する現地人には教育など無用とする日本人統治者に対して、「五族協和」なら在留日本人と同じレベルの高等教育を受けさせるべきだとして、当地初の高等女

学校を創設、そこでも茶道を教えたのである。

敗戦後は、在留日本人引揚者と共に八丈島に入植、インド原産の香料の生産に取り組み、その事業化が軌道にのるや再び南洋諸島へ。そして、最晩年は帰国、横浜で易占を生業として生涯を終えた。海旭の弟子には、社会事業では長谷川良信、教育では磯村英一、文学では武田泰淳など有名人が数多くいるが、無名ではあるが海旭の破天荒な生き方をもっともよく継承した「真の弟子」こそ青柳貫孝ではなからうか。

おそらく青柳は旅立った彼岸で海旭と再会、大アジア主義の末路について報告して恩師を愕然とさせたことだろう。

*

まだまだ語るべきエピソードは尽きないが、そろそろ紙幅が尽きた。「人間、棺を蓋いて初めて評価が定まる」と言われるが、海旭の場合、あまりに活動が多岐多様にわたっており、昭和八年六十一歳で逝って八十有余年

になってもなお評価は定まっていない。

それは海旭がいかなる器にも収まらない人物であることの証明でもある。また、海旭が手がけた、宗教の再生、社会事業、教育などは解決済みの「過去」ではなく、我々が直面している「現在と未来」の課題であることも意味している。そして、そこに我々の未来へのヒントがある。

と、泉下から、「こ、このあたりでよからう。百の御託よりも一つでも僕がやりのこしたことをやってくれたまえ」と壺月和尚の声が聞こえてきたので、読者諸賢のご愛読に感謝しつつここで筆をおくことにする。

払暁や 語りつくせぬ 名残月

最後屁珍僧正こと前田和男 合掌

(完)

*なお語り尽せなかったことについては拙著『紫雲の人、渡辺海旭』(ポット出版)をご笑覧いただきたい。さらに語り残したことについて今後執筆場所を改めて書き続けるつもりでいる。

『寺院消滅』『教養としての仏教』著者

鵜飼秀徳の寺々刻々

るコ
す
退
衰
イ
タ

恐山の風景



青森・下北半島の恐山にも、新型コロナウイルスの影響が始めている。今年の春と秋の恐山大祭は規模を大幅に縮小し、「死者の口寄せ」で知られるイタコの姿はなかった。コロナ禍をきっかけにして恐山から永遠に、イタコが姿を消してしまう可能性が心配されている。

私は5年ほど前からイタコを調査している。「イタコ」「恐山」というイメージを持つ人も少なくないはず。だが、彼女らは常に恐山にいるわけではなく、普段は南部地方（青森県東部、岩手県北中部）などで、地域に根付いて活動をしている。年に2度の大祭の時にだけ、恐山に出張してくるのだ。

前回、私が訪れたのは2019年秋の大祭の折。ひとりのイタコが恐山の境内で口寄せをしていた。口寄せとは、死者の魂を自身に憑依させ、その言葉を伝えるものだ。イタコは日本の伝統的なシャーマン（呪術師、霊媒師）の一種だ。

イタコの前には5組ほどの参拝者が順番を待っていた。しかし、2000年代初頭くらいまでは恐山に出張してくるイタコは何人もいて、全国からやってきた依頼者が早朝から何十人も列をなしていた。7、8時間待ちもざ

恐山の大祭で見かけたイタコの看板



らであったというから依頼者の数は随分、少なくなっている。

30年以上前から毎秋、イタコに会いに来ていいるという県内の女性は、涙を拭いながら亡き人と、対話していた。

女性は、

「義理の弟が今年で13回忌を迎えるので口寄せしてもらいました。とても懐かしい想いで胸が一杯になりました。私にとって口寄せは、お墓参りと同じく欠かせない習慣です」

と話してくれた。東北では、菩提寺とのつきあいは別に、こうした民間信仰がしっかりと根付いているのだ。

その実、イタコは年々その数を減らし、今では正統な伝承を受けたイタコはわずかに6人にまで減少している。その6人も89歳が最高齢で、70代以上が5人となっている。いま、イタコは絶滅危惧にあるのだ。

少しイタコの歴史について触れたい。イタコは室町期後期、下北半島を治めた八戸南部氏が、霊場として恐山周辺を整備すると、修験者に混じって「お山参り」するようになったのが始まりだと伝えられている。

修験道の修行の体系や経文の要素などを取り込んで、



盲目のイタコ、中村タケさん

独自の口寄せの技を確立したのが、江戸時代に「太宗婆（たいそうばあ）」と名乗ったイタコであった。太宗婆はその後、盲目の「高館婆（たかだてばあ）」にイタコの技を伝承。高館婆以降、イタコは目の不自由な女性の生業になっていく。

その昔ははしかにかかって、失明する子供が多かった。東北では、そうした子供でも食べていけるようにと、親が師匠となるイタコを探して、弟子入りさせていった過去がある。

明治初期にはイタコを名乗る盲目の女性が500人はいたようだ。真正のイタコであることを証明する場合、師匠から与えられる免許皆伝の証「オダイジ」と呼ばれる守り筒がその証拠になる。昭和40年代でも100人ほどのイタコが活動していた。

しかし、そんなイタコの世界も世の流れには逆らえず、伝承が途切れてきている。原因のひとつに公衆衛生の改善がある。ワクチンの普及によってはしかに罹る子供が激減。イタコの弟子養成も等閑になった結果、絶滅寸前にあるというわけだ。

とくに今年のコロナ禍はイタコの活動に大きな障壁と

八戸の自宅で行う口寄せを行う松田さん



なった。先述のように恐山でも大祭が縮小され、今年はイタコの口寄せが行われなかった。このままイタコ文化は静かに、幕を下ろすことになるのか。

希望がないわけではない。東北の貴重な民俗文化を守ろうと、ひとりの若きイタコが奮闘している。「最後のイタコ」と呼ばれている、48歳の松田広子さんだ。松田さんは幼い頃から地域のイタコと接し、憧れを募らせ、師匠に弟子入り。19歳でオダイジと数珠を継承した。松田さんは恐山には出張せず、八戸の自宅で口寄せをやっている。彼女に救いを求める人々は絶えない。

東日本大震災後は津波に流された肉親の「声」を聞きに、大勢が松田さんの元を訪ねた。非業の死は、遺族には受け入れ難いものだ。そうした時、死の原因を探りたくなり、イタコにすがる。

「もっと長生きしたかった」「極楽にいて成仏しているから心配しないで」

イタコの口から発せられる言葉を聞いて、すっと胸のつかえがとれる遺族もいる。

伝統仏教の僧侶である私たちには、イタコは奇異として映るかもしれない。しかし、この世は無常であり、い

イタコの守り筒「オダイジ」と、動物の骨や爪がついた数珠



つ何時、災害死や事故死、自殺など突然の別れが訪れないとも限らない。そんな時、地域の寺院以外にも「悲しみの受け皿」の選択肢があることは社会にとっても悪いことではない。

イタコを通じてご先祖様との交流が深まれば深まるほど、墓参りや法要も熱心に行うことだろう。民間信仰と仏教とは相乗効果をもたらす関係にある。

イタコの衰退はすなわち、日本仏教の衰退とも言い換えられるかもしれない。松田さんは私に「イタコは地域の相談役であり続けなければ」と話してくれたが、これこそ、仏教者らが肝にしっかり銘じなければならぬ言葉だと思った。

うかい・しゅうとく 1974年京都市生まれ。大学卒業後、新聞雑誌記者を経て2018年にジャーナリストとして独立。「仏教界と社会との接点づくり」をテーマに活動を続ける。著書に「仏教抹殺」（文春新書）、「ビジネスに活かす教養としての仏教」（PHP研究所）など多数。新刊に「仏員とノーベル賞 京都・島津製作所創業伝」（朝日新聞出版）。東京農業大学・佛教学非常勤講師、一般社団法人「良いお寺研究会」代表理事。京都教区正覚寺副住職。

八木 千暁

(東京・小石川・一行院住職)

江戸時代後期、諸国を巡り驚異的な教化力を発揮された念仏行者「徳本」は、文政元年当山で61歳の生涯を閉じられ、境内の御廟ごほらに葬られています。その五輪の宝塔は高さ4メートル40センチに及び大きなもので、人々の徳本への畏敬の念を象徴するかのようです。徳本行者二〇〇回忌を契機に「徳本名号塔研究会」が発足し、研究者、郷土史家、愛好家など多くの方との出会いが繋がり、全国の名号塔の情報が集積されました。現在全国に徳本の独特な名号を刻んだ石塔は一七七一基が確認されています。

念仏行者 徳本上人研究会



第三回研究会の会場とさせていただいた
長野・寛慶寺の徳本名号塔

みんなの 境内

加藤 昌康

(東京・下北沢・森蔵寺住職)

- ・高句麗王朝の仏教と絵画
- ・ほとけを支える
 - 蓮華・霊獣・天部・邪鬼 —
- ・仏教絵画から読み解くシルクロードの歴史
- ・ほとけをめぐる花の美術
- ・優しいほとけ・怖いほとけ

ナムちゃん教室

平成28年から「ナムちゃん教室」と銘打った寺子屋（勉強会）を開催しています。昨年までに15回を数え、学生時代に美術史を学んだことから、その約半分が根津美術館や増上寺などを会場にした仏教美術講座です。それに加え、「これからの車社会」が3回、実際のスピードウェイを走る「運転講習会」、最近では「そしてフィジカルコーチから見た一流アスリートのトレーニング法」と、お寺、仏教という枠組にとられない色々な分野にわたることが特徴です。

ちなみに仏教美術講座の内容は

浄土宗の青年僧侶に伝えたい

ぶつぶつ 放談

今回からは若手僧侶に登場いただき、実際のメディア活用とお寺の現場に必要な「IT」についてお話しいただきます。

お寺に必要な「IT」を考える 第3回

◆登場者◆

井上 広法

いのうえ・こうほう

1979年宇都宮市生まれ。栃木県・宇都宮・光琳寺住職。佛科大学で浄土学を専攻したのち、東京学芸大学で臨床心理学を専攻。テレビ番組「ぶっちゃけ寺」や人生相談サイトhasunohaの立ち上げに関わり、現代における新しい仏教の入り口作りを目指している。

小路 竜嗣

こうじ・りゅうし

1986年、兵庫県伊丹市生まれ。長野・松本組善立寺副住職。信州大学大学院工学系研究科卒業後、リコー入社。結婚を機に退職し、妻の実家である善立寺に入寺。寺院のIT導入支援や企業への提案などを行っている。

◆司会◆

服部 祐淳

はっとり・ゆうじゆん

1983年、長野市生まれ。長野・青木島・安養寺副住職。2020年3月まで浄土宗出版に勤務していた。

司会 「ぶっちゃけ寺」（テレビ朝日系列）を始め、様々なメディアで活躍の井上さんは、お坊さんが答える人生相談サイト「hasunoha」（はすのは）を立ち上げられました。その経緯からお聞かせ下さい。

井上広法師（以下井上） 開設は2012年、東日本大震災の翌年です。震災、そして原発事故が重なり、日本全体に先々の不安が蔓延する中で、何かできないかという模索から始まりました。

Yahooでディレクターをされていた方とご縁があり、Web（ウェブ）を使って社会に貢献できるサービスができないかと震災直後から相談を重ね、1年かけてシステムなどを構築し、開設に至りました。

司会 僧侶ができる社会貢献は様々な方法があると思いますが、なぜWebを選んだのですか？

井上 リアルコミュニケーションのハードルが高いと思ったからです。人の悩みて面と向かって話せない内容が多いじゃないですか。

開設以来約7万件を超える相談がありました。が、不倫や性に関するものなど、対面では話しにくい内容が実際に多いのです。そして、こうした悩みはお寺で相談しにくい、説教されそうでもん（笑）。でも、赤裸々な悩みだから答える意味があるわけで、Webならそのハードルはぐっと下がります。いつでも、どこでも相談ができるという利点もWebならではです。

司会 お坊さんが答える人生相談サイトというところが話題になり、「バイキング」（フジテレビ系）のレギュラーコーナーになるなど、様々なメディアで取り上げられました。Web戦略はあったのですか？

井上 これは自身で仕掛けたというより、SNS（エスエヌエス）の効果が大きいですね。いわゆるバズるといふやつです。

Twitter（ツイッター）で誰かが「お坊さんがこんな面白い回答してるぞ」ってつぶやくと、リツイートされてどんどんバズっていく。これを見たテレビ局が取材に来て、それ

でまた「いいね」のリツイートが増えていくといった具合です。

司会 最近のメディアの取り上げ方の特徴ですね。

井上 はい、SNSで盛り上がったことをメディアが取り上げる。ひと昔前とは逆の現象です。Medメディアにかかわらずヒット商品となるものの背景にはこういった方程式があります。

SNSって聞くだけで「怖い」とイメージされる方も多いですが、その特徴を知ることが大切です。拡散性に優れたTwitterはこれだけ周知できる能力があるわけで、比較的オフィシャルで使われるFacebook（フェイスブック）はHasunoha創設時に、回答してくださる僧侶の募集にも活用しました。使い方次第ですね。

司会 小路さんはエンジニアとして勤務された後、結婚を機に一般家庭からお寺に入られました。入山直後、お寺の「IT化」はどう映りましたか？ 率直にお聞かせください。

小路竜嗣師（以下小路） とにかく紙が多いですね（笑）。手紙、ハガキ、FAXなど、やり取りの基本が紙。浄土宗からも多く届きます。しかも意外に長く保管しなければならぬものも多い。お檀家さんに対しても發送物は紙ですし、過去帳、名簿などの個人情報ももちろん紙です。浄土宗青年会に入ったら、案内から始まり会議資料もたくさん紙で作られますしね。

あと、出家前から思い描いていた、お経を唱える、仏教を学ぶなどのいわゆる「お坊さんの時間」が一日の内ごくわずか、ほかの仕事で忙殺されていると感じました。ですから私が行う「お寺のIT化」の目的はこの「お坊さんの時間の確保」としました。

「お寺のIT化」というと仲間から「お檀家さんが数倍に増えるのでしょ」、「お寺に人が殺到して困っちゃうんじゃないの」と言う人がいますが、そうではなくて、現実の困りごとを一つひとつ解決していくというものです。ITは決して一発逆転満塁ホームランではな

Web（ウェブ）

ワールド・ワイド・ウェブの略で、世界中のどこでもコンピュータ（パソコン、携帯電話など）を通じて同じ情報を得られるシステムのこと。ウェブはくもの巣のこと。

いのです。

司会 お寺で実際に取り組まれたIT化を教えてください。

小路 墓地図が手書きの紙だったので、それをPDFからエクセルに落とし込んで番号を付しました。

「〇〇さんのお墓参りをしたいのですが」と、突然の来客時、紙の資料だと「〇〇さんですか」と一枚一枚探さないといけない。覚えていたはずの名前が違っていたら、それこそでんやわんやです。これに10分かかったとしても、その方は玄関先で何もせずに気まずそうに待っていています。「お待ちせしました」とお伝えした時には申し訳なくて「すみません」で会話も終わってしまいます。

これがエクセルならば検索して1分もあればわかる。短縮された9分はその方と会話する時間に回せます。「どこからいらつしやったんですか」「故人さまとはそういったご関係で」など話はすすみ、「それでは一緒にお参りしましょうか」となれば、私は「IT化

成功」だと思っています。同じ10分の使い方も大きな違いです。

これはIT化に少し懐疑的な面もあった住職にも好評でした。エクセルという比較的使いやすいソフトにすることで、新しく亡くなられた方がいた場合も誰でも簡単に更新が可能です。

司会 なるほど。

小路 自坊では定期的に紙の寺報を配布していますが、これも業者頼むと高いので、アドビのクリエイティブクラウド(編集ソフト)を入れて記事からデザインまで自分でやっています。

紙媒体はそのまま読めるので年齢も問わない。決してメディアとして不要になることはありません。むしろ使い方次第で強力なツールとなります。紙の寺報は檀家さんに配布と同時にHPを通じて他の方にも見てもらえます。

このほか、御朱印にQR(キューアール)コードとNFC(エヌエフシー)を付けまし

バズる
ハエなどがブンブン飛び回ることから、世間の話題になって広がっていること。流行していることをいう。

た。御朱印集めを「趣味」にされる方も多いですが、うちは田舎なのでそんなに頻繁に御朱印目当ての方が参拝されるわけではありません。お参りいただくのは嬉しいので、境内もご案内しますが、一度きりのお付き合いではもったいないので、御朱印にHP（ホームページ）やFacebookなどのWebメディアにつなげる仕掛けを付けておくことで改めてお寺を知ってもらい、後日の交流も図ることができます。

井上 めちゃくちゃ勉強になります！

私もいまドローンを使った墓地図の作成を考えています。もともと墓地図がなくて困っていました。そこでドローンで真上から写真撮影し、それをアドビに落として枠を抽出する形で地図を作れないかと探っています。石材店にそれやったら事業になるからって勧められているのですが、なかなか腰が重い……。

管理ソフトがエクセルっていうのもミソですよ。お寺を管理してもらう人がITに詳しい方とは限らないのですし、専用のソフト



光琳寺 QR コード

<http://www.facebook.com/kourinji>

「光琳寺」で検索



井上広法氏

QR（キューアール）コード
クイック レスポンスの略で、マトリックス型二次元コード（符号）のこと。コンピュータで読み取ると瞬時に目的の画面などに移ることができる。

で忠実に線をなぞる必要もあまり意味のない
ことですし。

小路 そういうことです。お寺向けITサー
ビスってどれも使い勝手がよくない割に高く
ないですか？

お檀家さんの管理帳、いわゆる現在帳や過
去帳もWindows（ウィンドウズ）版が出て
いたりするのですが、いつの時代に作った
の？ といったものばかり。

つまり様々なソリューションを持っている
IT企業が、お寺が何で困っているかを全く
理解していない。まさにミスマッチが現状で
す。ここに「お寺のIT化」が他業種より遅
れている原因があるように思えます。

司会 なるほど。小路さんが様々なIT企業
とコラボしてイベントを開かれたり、SNS
で情報発信をされているのはそういう背景が
あったんですね。

小路 井上さんの活動対象が檀信徒、一般向
けなのに対し、私はお寺間や、お寺の中のIT
化を進めたいと思っています。実際、IT



善立寺 QRコード

<https://zenryuji-jodo.com>

「塩尻 善立寺」で検索



小路竜嗣氏

NFC（エヌ エフ シー）

ニアフィールド コミュニケーションの略で、端末をかざすだけで通信ができる技術のこと。QRコード同様、簡単に目的の画面にたどり着ける。

企業でもカスタマーを対象としたものに比べ、企業内の効率化などを図る仕事が多いのです。

ですから布教する人、伝える人って意味のエバンジェリスト（伝道者）という肩書をつけて「お寺の困っていること」と「企業の技術」がうまく擦り合わされるような活動もしています。

ただハードルは高いですね。IT企業とのコラボイベントで私が改良服でイベント会場に行った時のことです。気になったブースがあったので営業の方に質問をすると、驚いたような表情で奥からマウスを持ってきて「和尚さん、これをマウスって言いました、右を一回クリックすると……クリックってわかります？」といったような説明で（笑）。実際IT企業からするとお坊さんのイメージはこんな感じだと思います。

アメリカだとマイクロソフトのオフィスや大手企業が発売している顧客管理ソフトなどは、教会などの宗教施設は無料で使えたりしているのですが……。

井上 へえっ。宗教に寛容というか、理解がありますね。

小路 日本ではいまだにいわゆる坊主丸儲けという見方が根強いようで、お寺から働きかける草の根運動ではなかなか進みません。浄土宗が宗門として働きかけてくださればよいのですが。

井上 なるほど、この件は海外情勢にも詳しく、浄土宗はもちろん仏教界全体を見ている方に先頭に立つてもらいたいですね。

小路 切に願います。

IT化が遅れることは宗全体としての損失にもつながりますから、未来のお寺のためにもぜひ。

司会 確かに。では次号では、実際にお寺の実務に役立つIT化を考えていきたいと思いません。

（次号につづく）

追悼 写真家鬼海弘雄さん

鬼海さんのお付き合いは、鬼海さんが土門拳賞を獲った頃だから16年ほど前からだったか。ポーランドの映画監督、あのアンジェイ・ワイダが激賞している日本の写真家、その肴だけで一緒に二晩は呑めるとばかりに一気に友人となった。

共通の知己が社長をしている神保町の出版社では、月一ぐらいのペースで四五人集まり酒を呑み放談の限りを尽くした。浅草の定点撮影の帰途はよく根岸の私の寺へ寄るなど、密な付き合いとなった。

本誌『浄土』の表紙を依頼したのは、わりと最近のこと。二人で、撮影を兼ねて、北鎌倉から八幡宮へ山越えし、当時の大本山光明寺御法主、宮林昭彦台下とご一緒し、晚餐をご馳走になったことなど忘れがたい。

近年、体を壊したが、もともと電話魔なところがあって、入退院の間、毎日あるいは日に何度も電話が掛かったりした。それが先月からばたりと止んだ。

たった一台の、それも標準レンズ一個だけのハッセルブラッド。それだけで賞を10個以上は獲ただろう。刊行された写真集は数知れず。加えて、なかなかの名文家でもあって、岩波からエッセイ集も出た。いつも飄々として、山形は寒河江訛の言説で、ひとを笑わせ煙に巻くのが得意だった。

嗚呼、寂しいです鬼海さん。さようなら鬼海さん。

でもまあ、しばらく待っていてください。いずれ近いうちに追いかけます。むこうでまた呑みましょう。

本誌編集部 佐山哲郎

きかい・ひろお 1945年山形県寒河江市生まれ
法政大学文学部哲学科卒業。山形県職員を辞して、トラック運転手、造船所工員、遠洋マグロ漁船乗組員など様々な職業を経て写真家に。

APA賞特選、日本写真協会新人賞、伊奈信男賞、「写真の会」賞、写真集「PERSONA」で第23回土門拳賞受賞。





微

風

吹

動

日々を数える所作

何回だってやり直す

悲しみなんて川に捨てる

本当は内ポケットに仕舞ったままだ

仕様が無いから連れて歩く

(イースタンユース「矯正視力〇.6」より)

工藤量導

「もういくつ寝ると♪」で始まるあの童謡のように、幼い頃は、待ちわびたイベント当日を指折り楽しみ数え過ぎたものだ。それがこの頃はというと、日々を数える機会が「あと何日残っているかな…」という焦りと苦心に苛まれたカウントダウンばかり。

そう、締切りだ。もちろん、しつかり守り通すことができれば、区切りならぬ「苦切り」の解放感を味わうこともできるけれど、油断していると新たな締切りが容赦なく迫ってくる。この原稿を書いている今もまさにタイムリミットを数える日々の真っ只中だ。

イタリアの小説家パオロ・ジヨルダノ氏は「日々を数える」(『コロナの時代の僕ら』収録)というエッセイで、旧約聖書の詩編にある「われらにおのが日を数えることを教えて、知恵の心を得させてください」という聖句をあげて次のように綴っている。

感染症の流行中は誰もが色々なものを数えてばかりいる(中略)
僕たちは感染者と回復者を数え、死者を数え、入院者と学校に行けなかった朝を数え、株価の暴落で失われた莫大な金額を数え、マスクの販売枚数を数え、ウイルス検査の結果が出るまでの残り時間を数え、集団感染発生地からの距離を数え、キャンセルされたホテルの部屋数を数え、自分と関係のある人々を数え、自分があきらめた物事を数える。そしてひとつ、幾度も幾

度も、何よりも繰り返し数える日数がある。危機が過ぎ去るまで
にいったいあと何日あるのか、だ。

わずか数ヶ月前の緊張に満ちたあの日々の空気感を、「数える」というごく当たり前の日常的な題材で切り取った名文だ。続けて、
でも、僕はこんな風に思う。詩編はみんなにそれとは別の数を
数えるように勧めているのではないだろうか。われらにおのが
日を数えることを教えて、日々を価値あるものにさせてくださ
い——あれはそういう祈りなのではないだろうか。(中略)日々
を数え、知恵の心を得よう。この大きな苦しみが無意味に過ぎ
去ることを許してはいけない。

という。苦痛な日々を数え過ごすことを、可能なかぎり意義あるもの
に転化しようという強い意志。そこには神に与えられた試練を乗
り越えんとするキリスト教の信仰という土壌もあるのだろう。とも
あれ「日々を数え、知恵を得る」という訓戒が心をゆさぶる。

他方、仏教的な文脈で考えてみると、人生とは生老病死の苦その
ものであり、煩惱を断尽してこそ「智慧」が得られる。敬虔な仏教
徒としては本来、生まれ変わり死に変わりを延々と繰り返した輪廻
無窮の時間と重ねた罪業の計り知れない量をひたすらに数えあげ
て、その事実と真摯に向き合い、身を浄め、心を定めて、智慧をつ

かみ取り、日々を意義あるものへ昇華せねばならない。

と大上段に構えて考えを馳せてみると、その途方もなさについて怖れおののいてしまう。割り切れない喜怒哀楽の感情と捨て切れない執着心が渦巻く私のような方向音痴では、きつと進むべき方向に迷い、歩み始める勇氣さえ見失ってしまっただろう。もう少しスケールダウンし、自身の弱さや情けなさと共に生きる道も必要なのだ。

そうして私たちが日々を小さく仕切り直し、前を向き、踏み出せるようにあみだして頂いた所作が、掌を合わせ、祈りを込めて仏のみ名を十回数える「十念」ではないかと思う。失敗し、やり直すことを大前提として日々に何度も悔い数え、いつかは今世・来世の区切りをつかさどって悲しみに寄り添う、光と命に祝福された聖なる反復句である。仏は数限りない懺悔の呼びかけに応答を重ね、苦悪を隣く間に断切し、智慧の道をまっすぐに歩ませてくれるのだ。

「何回だって数え直す」。十を数えるあの瞬間、あなたは何を考えるだろうか。私も振り切ったはずの後悔の念がまだポケット内に幾ばくか仕舞われたままだ。それでも良い、前に進めよ、と背を押し続けていく気がする。ついに苦切りの時限がやってきたのだ。

往生？ いやいや人生の締切りはもう少し先。ひとまず脱稿、すなわち締めを祈るカウントテンが始まったところだ。

合掌十念

江戸の川

を歩く

総集編・後編

江戸ウォーカー

森清鑑

3. 江戸百万都市を醸成した舟運

〈舟運が必要な理由〉

ここにおもしろいデータがある。江戸の人々が食べる米の量を年間平均約一石（二俵半）とする。と、百万人の胃袋を購うには四十万俵の米を江戸に輸送しなければならぬ。この膨大な量の米を運ぶためには、馬で輸送したら二十万頭、大八車だったら六万七千台を要する。しかし、馬の輸送は荷崩れが起きやすく手間がかかり、大八車は農家の転出を防ぐため目を光らせている藩が多い。しかも、主食の米は秋の収穫から数ヶ月以内に江戸に運ばなければならぬ。

また、別のデータによると一度の積載量は、馬二俵、大八車六俵に対して川船は小舟でも四十五俵、中船だと二百俵、大船だと三百五十俵も運べる。これらのデータをもつてすれば江戸百万都市を醸成するためには、河川の舟運流通が不可欠の要素であることが分かる。

家康は大江戸造りの根本を舟運路の開発、整備、

河川の全面利用に置いた。以後、彼は全国の大名にも領地での河川舟運工事の整備を命じているのである。

〈江戸の舟運の実態〉

川の水深によって積載量は異なる。例えば利根川に浮かぶ大船は千二百俵も積み込むことができた。川は一般に上流になると水深が浅くなる。そのため荷を小舟に積み替える必要がある。そこで、川舟は概して浅瀬でも喫水が浅く船底が平らな細長い舟となっている。高瀬舟はこうして生まれた。また大船の場合、浅瀬に来ると荷を小舟に小分けして軽くし、喫水をあげるなどの工夫がなされた。したがって同じ河川を各種タイプの舟が乗り継ぎで使われることになる。

さらに順風の時には帆柱を立て、逆風の場合には河川沿岸の土手より長い綱を持って曳く、いわゆる曳舟もあちこちの川で見られた。舟運にはこのように川の水深次第で舟の乗り換え、積み替えが必要となる。しかし、陸上輸送に比べればはるかに経済的で効率よく安全なため、河川舟運は飛

躍的に発展したのである。

4. 物流施設、河岸の発展

〈川の駅、河岸が町を作る〉

河川舟運路には次第に物流施設ができていく。つまり、河岸である。これは今日の鉄道駅のようなもので、荷物の積み降ろしの場だ。やがてここに大小様々な舟を手配、管理する舟問屋ができる。船持人、船頭、荷積み、荷揚げをする小揚、軽子などの人足などが集まる。

そして物資を大量保管する蔵が立ち並ぶ。特に有力藩ともなれば、江戸に米を運ぶ場合、一旦途中の蔵に保管しておき、必要に応じて江戸に舟運するため中継基地を要する。そして荷物を商取引する問屋ができる。店が建ち並び人が集まり次第に商圏を形成するようになる。

河岸は地理的には舟の積み替えを要する、本流、支流の分岐点や陸上交通との接点、つまり街道筋との交差点に多く誕生する。



図1 利根川水系の河岸

〈主要河川の河岸分布〉

一、利根川水系

利根川の東遷。渡良瀬川、鬼怒川の利根川への合流、関宿から行徳にいたる江戸川の開通……、これによって江戸への舟運ルートが完成。利根川自体、高崎から銚子に至るまでに二十九もの河岸ができる。下流では布施、取手、佐原、笹川、どれもが地方の物産を集積し江戸に運ぶために必要な基地。江戸に行く荷は基本的に江戸川を下る。分岐点にある関宿と向かいの境河岸は重要な河岸となる。荷物は江戸川を下って行徳から小名木川を西に。さらに隅田川を渡り日本橋川經由で江戸城中枢部に運ばれる。

二、渡良瀬川、鬼怒川の河岸

渡良瀬川の河岸は上流の猿田から利根川に入るまで五つある。途中、巴波川、恩川が合流するが、これらの川に六河岸。渡良瀬川の東を流れる鬼怒川には上流にある有名な阿久津河岸から利根川に至るまで九つの河岸が誕生し繁栄した。

三、霞ヶ浦舟運

霞ヶ浦、北浦の広大な湖は舟運航路としても活用された。例えば水戸藩は那珂湊から涸沼川を下り、一度は陸上輸送になるがすぐに霞ヶ浦舟運を使い南に下って、常陸利根川經由で利根川本流に繋げて輸送。途中、河岸として栄えた潮来には各藩の蔵が並ぶ。また、海の東回路が開発されてからは銚子湊から入る利根川利用も増えた。

関東、東北から江戸への主な下り物には、米、大豆、青苧（高級織物の糸）、紅花、紙、煙草、蠟、木綿、醤油、酒、蓮根、水油、油粕、石炭、大麦、麻、板、砥石などが上げられる。逆に上り物には加工製品が多い。

四、中川の舟

隅田川と江戸川の中間を流れる中川も重要な舟運路であった。広重が描く「中川番所」の絵に材木の筏組を巧みに操る筏師の姿が描かれている。材木は深川の木場に直送されるのだらう。中川には綾瀬川、元荒川が合流してくるので、材木、農産物などの地域運搬が活況を呈す。

五、荒川の舟運

荒川が西遷され秩父の山間部から、長瀨^{ながたろ}、寄居を通過。熊谷から江戸湾に向かって南下。途中、高麗川^{たかまがわ}と新河岸川が加わり隅田川に直結するようになる。水量も増し、江戸への重要な舟運路となった。結果、荒川には川口、千住、浅草に至るまで多数の河岸が誕生する。荒川舟運で江戸へ送られる物資は、米、炭、味噌、醤油、薪、小麦粉など農産物が多いが、「木ノ川」と呼ばれるくらい木材が運ばれた。奥秩父の山林から杉や松、高麗川からは杉、檜。これを筏に組み立てて流す、いわゆる筏流しで江戸に輸送。河岸が沢山でき物資の取引が活発になると、地方の特産物生産も活発化する。秩父の絹織物、狭山の茶。平賀源内も筏流しや薪炭の荒川舟運路開発に貢献している。

六、新河岸川舟運

川越藩領主は松平信綱（知恵伊豆と称される）であるから、川越と江戸を結ぶ新河岸川舟運に力を入れた。このため川越の仙波河岸から和光の新倉河岸までびっしり河岸が並ぶ。川の両側には蔵

が建ち並び、米、麦、さつまいもなどの農産物が江戸に送られた。

七、多摩川の筏流し

奥多摩、檜原村の豊富な檜、杉は多摩川源流に鉄砲堰を造って押し流し、青梅で筏に組まれ、筏師のさばきで多摩川の流れに乗って羽田まで運ばれた。

〈江戸中枢部の河岸〉

舟運路を織り込み済みで江戸湾に向かって計画的に埋め立て造成していった江戸の中枢部には河岸が集中しており、主な河岸だけでも七十三カ所に及ぶ。河川から、海からやってきた物資は大型船から中型、小舟に分けられ入り込んだ運河のあちこちにある河岸から陸揚げされた。

隅田川河口から豊洲橋を潜って日本橋川に入るとすぐ新堀河岸。続いて行徳河岸（塩など行徳からの物資扱い）、茅場河岸と続き、その先は掘留に向けて米河岸。左折して楓川を行けば江戸初期の材木集積地となった材木河岸。さらにまっすぐ行けば日本橋の魚河岸。その向かいには蔵が建ち並

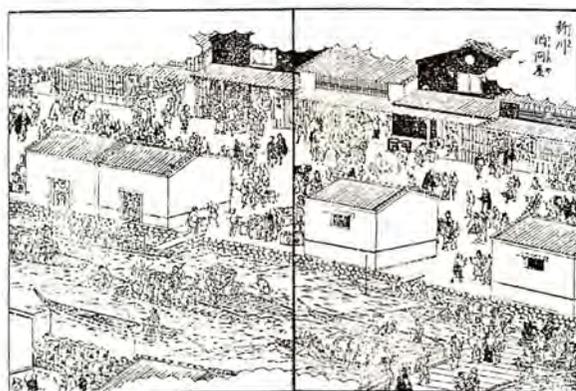
ぶ四日市河岸。先に進んで外堀に行けば鎌倉河岸。鎌倉河岸は江戸城建設の石材を鎌倉から運んだためについた名。京橋川に入ると竹が立ち並ぶ竹河岸。隅田川から神田川に向かって浜町川を行けば浜町河岸。神田川の両側はお茶の水を越えても河岸だらけである。道三堀から内堀に行けば八代州河岸（八重洲）。三十間川汐留橋から幸い橋に行けば芝口河岸。古川から入れば金杉河岸を始め、ずらりと河岸が並ぶ。

5. 大阪と江戸の海運

〈江戸へ下る酒〉

大阪から江戸に送り込まれる生活物資量（木綿、油、酒、酢、湯浅醤油など）は膨大であった。活躍したのは、荷物が落ちぬように船の両側に菱形の垣を立てた大型の菱垣廻船。元禄の頃には千二百〜千三百隻が就航。隅田川河口沖に停泊し荷物を中船、小舟に分けた。

菱垣廻船は一隻分の荷を広範囲から集めるので



江戸名所図会：新川酒問屋：当時の河岸の様子がよく分かる。

時間がかかるため、足の早い酒や醤油専用の船ができる。それが樽廻船。日本橋川下の新川沖に停泊。新川の新堀河岸、稲荷河岸には酒問屋が集中。ここから江戸各所に舟運された。新川地区は下り酒が届くとお祭り騒ぎであった。

(了)

さっちゃんねえ

116 かい目

かまち♡ふじろう



かまちよしろう先生作新聞四コマ漫画「ゴンちゃん」が各地方新聞に掲載されています。(京都新聞・静岡新聞・山梨日日新聞・北日本新聞・福島民報・宮崎日日新聞・新日本海新聞・神戸新聞・岐阜新聞・中国新聞・四国新聞・徳島新聞)

編集後記

2003年6月号から176回、18年続いた四コマ漫画「さつちゃんはネツ」、そして2008年1月号から112回、12年続いた前田和男氏の「小説 快僧渡辺海旭 壺中に月を求めて」が今月号で最終回を迎える。

「おばあちゃん」のテーマで始まったかまち氏の四コマ漫画はホッと一息つける頁に、明治、大正、昭和初期を生きた渡辺海旭師、師を取り巻く人々や時代背景が目に浮かぶ前田氏の連載は芝学園出身の皆様には魅力ある小説風評伝の頁になったに違いない。2011年には『紫雲の人、渡辺海旭』が刊行されている。両氏に編集部より御礼を申し上げる次第である。

さて、森清鑑氏の「江戸の川を歩く」、こちらも連載40回と総集編（前後）で幕を閉じるが、新年号からは江戸から伸びる五街道にスポットをあてた新連載が始まる。こちらも切り口は江戸の川同様「家康の築いた江戸」である。

「ぶつぶつ放談」はITシリーズの3回目で若手僧侶が登場する。「ぶつちゃん寺」など関東のTVではお馴染みの井上広法師。そしてもうひとつ方は信州大学大学院出身で（株）リコーに勤務されていた理系僧侶、小路竜嗣師だ。ITとかZOOMと聞くだけで思考が停止しがちだが、お二人の話を聞いて、とても身近なものであると気付かされた。

雑誌『浄土』 特別・維持・賛助会員の方々

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)
 藤谷勝正(目黒・祐天寺)
 魚尾孝久(三島・願成寺)
 加藤昌康(下北沢・森巖寺)
 桑原恒久(川越・蓮馨寺)
 桑原勇慈(甲府・瑞泉寺)
 佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
 佐藤久雄(品川・願行寺)
 佐藤良純(小石川・光圓寺)
 東海林良昌(塩釜・雲上寺)
 河本悠大(函館・称名寺)
 高口恭典(大阪・一心寺)
 中島真成(青山・梅窓院)
 中村康雅(清水・実相院)
 中村瑞貴(仙台・愚鈍院)
 成田憲憲(世田谷・大吉祥寺)
 野上智徳(静岡・宝台院)
 藤田得三(鴻巣・勝願寺)
 堀田卓文(静岡・華陽院)
 本多将敬(両国・回向院)
 松濤彦彦(芝・寶松院)
 水科善隆(長野・寛慶寺)
 (敬称略・五十音順)

ホームページ jodo.ne.jp/
 メールアドレス hounen@jodo.ne.jp

ウィズコロナの新年を迎える。来年初で最後のウィズコロナ正月となることを、そして読者のご健勝を心より祈念申し上げ、3度目の編集後記とさせていただきます。
 (村田)

編集長 編集部員

村田洋一
 斎藤晃道
 佐山哲郎
 青木照憲
 平井泰代子
 本原克道

浄土

八十六巻十一月号頒価六百円
 年費六千円

昭和十七年五月二十日第三種郵便物認可
 印刷 令和二年十二月十日

発行 令和二年十二月一日

発行人

佐藤良純

編集人

長谷川岱潤

印刷所 株式会社 晩印刷

〒105-0011

東京都港区芝公園四丁目四明照会館四階

発行所

法然上人鑽仰会

電話 〇三三五七八・六九四七

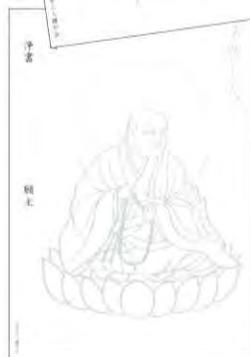
FAX 〇三三五七八・七〇三六

振替 〇〇一八〇・八八二八七

疫病退散を願ひ

仏さまを 写しましょう

当会オリジナルの「写シリーズ」に
写仏が新登場。ゆっくりした時間のなか、
ご自宅で仏さまや法然上人のお姿
をなぞって心を通わせましょう。



【写仏】6枚1セット

阿弥陀如来

観音菩薩

勢至菩薩

薬師如来

地藏菩薩

法然上人

※
お申し込みは
裏面へ

法然上人鑽仰会

〒105-0011 東京都港区芝公園 4-7-4 明照会館 4階
お問い合わせは FAX またはメールでお願い致します。

FAX : 03 3578 7036 Mail : hounen@jodo.ne.jp

TEL : 03 3578 6947